

科目コード	B404
授業科目名	卒業研究
授業科目名(英文)	Graduation Thesis
講義室等	研究室
学科	環境マネジメント学科
対象学年	4年
開講学年	前学期
必修・選択の別	必修
単位数	8
時間数	
該当ディプロマ	◎環DP-5
学科	
対象学年	
開講学年	
必修・選択の別	
単位数	
時間数	
該当ディプロマ	
担当教員	石松 維世
授業の概要	個別の講義・演習・実習を通じて学んできた、労働と環境に関わる幅広い知識と技術を有機的に結合させて研究を行い、産業保健に関する知識を高め、卒業論文を作成し発表する。
授業の到達目標 (学修効果)	1. 研究テーマの設定、文献検索、実験のデザイン・調査計画の立案などを通して、各自の研究の位置づけ、展開のアウトラインを策定できる。 2. 実験・調査の実施、結果の整理と考察を通して、研究によって得られた知見の検証を行い、予想される次の展開を導出できるようになる。 3. 得られた成果を研究発表・討論の形で他者に伝え、論文の形で公表する。 4. 論文作成を通して、資料やデータのまとめ方、レポートの書き方、他人にわかりやすく伝えるための技術や方法を習得できる。
予習復習の所要時間	
成績評価方法	卒業研究への取り組みの姿勢、ゼミ資料のまとめと発表態度、中間報告会の抄録および発表態度、卒業試験の抄録と口頭試問、卒業論文審査の成績等により、総合的に判定する。 100点中60点以上を合格とする。 ただし、卒業論文が期日までに提出されない場合は、履修判定されない。
教科書	
参考書	
その他	2022年9月26日に中間報告会を開催し、2023年1月23日までの間に以下の手順で履修判定を行う。 2022年9月26日 中間報告会 2022年12月下旬 卒業試験(口頭試問) 60点未満は再発表 2023年1月10日 卒業論文提出締切、卒業試験(口頭試問) 再発表(対象者のみ) 2023年1月中旬 卒業論文審査、履修判定 2023年2月上旬 履修認定(成績確定) 次ページは、2022年度の学生が取り組むテーマなどを参考に示したものである。

	研究テーマ一覧	実習の形態	実習担当者
1	化学物質のリスクアセスメントを効果的に実施するための要因に関わる研究	研究	原 邦夫
2	日本での化学物質災害時における緊急時対応用米国ソフトウェアの活用	研究	原 邦夫
3	リモートワークとワークライフバランス及び就業形態の関係性に関する研究	研究	河村 洋子
4	職域専門職者の禁煙支援力向上に関する研究	研究	河村 洋子
5	働くことのモチベーション向上のための取り組み	研究	河村 洋子
6	事業場における安全衛生活動の促進要因について	研究	渡邊 裕晃
7	参加型安全衛生活動による職場改善手法について	研究	渡邊 裕晃
8	ITを用いた安全衛生教育手法の開発	研究	庄司 卓郎
9	安全意識評定方法の開発	研究	庄司 卓郎
10	ノンテクニカルスキル評価方法の開発	研究	庄司 卓郎
11	生体信号を用いたヒヤリハット検出方法の検討	研究	山田 晋平
12	蓄積疲労の客観的評価方法の検討	研究	山田 晋平
13	ヘッドマウントディスプレイ装着による負担感に関する心理生理学研究	研究	倉岡 宏幸
14	VR空間及び現実空間におけるフロー状態および生理反応の差異	研究	倉岡 宏幸
15	各防護手袋材料に対する有機溶剤の耐透過性能についての研究	研究	宮内 博幸
16	IT0ターゲット研削作業工程作業員における個人ばく露濃度測定方法についての研究	研究	宮内 博幸
17	個人サンプリング法の測定時間と評価の関係についての検討	研究	宮内 博幸
18	切削剤曝露による健康影響についての文献的調査	研究	石松 維世
19	室内外における総粉じんおよびPM2.5中の浮遊微生物の測定	研究	石松 維世
20	ベリリウム等の低濃度管理物質に対する有効な曝露防止対策	研究	石田尾 徹
21	エキシマランプを用いた新たな発散防止抑制装置の開発	研究	石田尾 徹
22	骨の分析から調べる重金属汚染	研究	樋上 光雄
23	簡便な三次喫煙評価法の探索	研究	樋上 光雄
24	オルト-フタルアルデヒドのばく露実態に関する調査研究	研究	山本 忍